

《担当者名》○ 冨家 直明（心）tomie@hoku-iryo-u.ac.jp 西郷 達雄（心）t-saigo@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

本授業のねらいは臨床心理学の理論を基本に教育相談の理論を概観するとともに、学校教育現場における実際の諸問題に切り込むための具体的方策を探索し、将来の教員たる出席学生ひとりひとりの意欲と技量の向上に寄与することを通じて教育相談現場で役に立つ教員を育成することにある。そのため、次の3つの柱を中心にアクティブラーニング形式による講義を行う。

- (1) 教育相談の意義と理論を知る
- (2) 教育相談の方法を知り、カウンセリングの技法を習得する
- (3) 教育相談の応用や展開を計画する

【学修目標】

教育相談は、児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸張や人格の成長を支援する教育活動である。児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身につけることを目標とする。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	講義の導入、ならびに学校教育における生徒指導における教育相談の役割と諸課題を概観する	講義のオリエンテーション、ならびに、生徒指導提要进行を参考にしつつ、生徒指導と教育相談の役割の違いを理解する。	冨家
2	教育相談の意義と理論を理解する	生徒指導提要第5章を参考に、教育相談に関する論点の整理を行う。	冨家
3	教育相談に関わる心理学の理論を理解する	教育相談に関する教育心理学、臨床心理学の理論について、重要なトピックスを整理する。	冨家
4	教育心理学のさまざまな理論を知る	カウンセリング、教育心理学の主要な理論を整理する。	冨家
5	カウンセリングの技法とその成り立ちを理解する	積極的傾聴技法とは何かを知り、実技練習を行う。	冨家
6	積極的傾聴技法を知る	積極的傾聴技法のロールプレイングを振り返り、今後の自己の技量を高めるためのヒントを得る。	冨家
7	教育相談で活用できるさまざまな臨床技法を学ぶ	多様な対象に応じたカウンセリング技法の応用方法について理解する。(技法1)	冨家
8	教育相談で活用できるさまざまな臨床技法を学ぶ	多様な対象に応じたカウンセリング技法の応用方法について理解する。(技法2)	冨家
9	児童生徒の問題行動の諸相を理解する	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果を通して、児童生徒の問題行動の諸相を理解する。	西郷
10	児童生徒の問題行動の諸相を理解する	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果を通して、児童生徒の問題行動の諸相を理解する。	西郷
11	いじめ・不登校への対応方法	いじめや不登校を例に取り上げ、その対応方法を学ぶ。	西郷
12	いじめ・不登校への対応方法	いじめや不登校の事例を通じて支援の在り方を考える。	西郷
13	教育相談を深めるための校内外の体制の構築と計画的推進	校内体制の作り方、小中高連携のあり方と諸課題について学ぶ。	西郷
14	保護者との連携方法	保護者との連携についてどのような課題があるかを調べ、その対策を考える。	西郷
15	教育相談の事例検討	教育相談の事例により対応と課題、評価について考える。	西郷

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート2回（100％）

【教科書】

生徒指導提要（教育図書社 または 文部科学省HPより各自ダウンロード）

【参考書】

「学校臨床」（金子書房）

「教育相談」（弘文堂）

【備考】

スクールソーシャルワーク教育課程の教育関連科目群「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に該当する。

【学修の準備】

授業の次回単元の予習2時間

授業後の復習2時間

【免許法施行規則に定める科目区分等】

「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」に該当する。

【実務経験】

富家直明（公認心理師、臨床心理士、スクールカウンセラー）、西郷達雄（公認心理師、臨床心理士、スクールカウンセラー）

【実務経験を活かした教育内容】

スクールカウンセラーの経験を活かした授業を行う